



# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

12月21日号（293号）

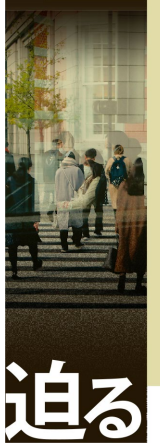
編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

## 元プロ野球選手・立正大教授 西谷尚徳さんの現在地

21日(日)=1、3面



多くの大学の授業に「アカデミック・ライティング」があります。学術論文やレポートなどを、客観的データや事実を適切に使って書き上げる技術のことです。立正大法学部教授の西谷尚徳さん（43）  
Ⅱ写真Ⅱはこの専門です。  
西谷さんはプロ野球楽天・阪神の内野手でプレーした過去があります。しかしそれは西谷さんにとって「想定外」でした。もともと「高校の国語教員になって野球の指導者になる」のが目標だったからです。  
プロ生活と並行して大学院に通いながら勉強を続け、修士号を取得します。引退後すぐに非常勤ながら高校の教員となり、さらに大学教授の道を進みました。その道を究めたアスリートが「セカンドキャリア」へ方向転換するのは難しいことです。西谷さんの場合は周到な準備をしていました。そんな西谷さんの「思考」に迫ります。



迫る

## 「ミャンマー総選挙」を斬る 24日(水)=総合面



論点  
内戦状態が続くミャンマーで、28日から総選挙が実施されます。軍事政権は政情不安が解消されない中で選挙を強行し、「民政移管」を主張するとみられています。国軍がクーデターで全権を掌握してからまもなく5年。民主派勢力を排除した今回の選挙は、長引く混乱の解消につながるのでしょうか。京都大学東南アジア地域研究研究所の中西嘉宏教授Ⅱ写真Ⅱのほか、選挙に反発する民主派関係者や参加政党の党首に聞きました。



東京大地震研究所旧館  
＝同研究所提供

## 東大地震研100年

21日(日)Ⅱ総合面



地震と火山研究の拠点である「東京大地震研究所」が11月、創立100周年を迎えました。「天災は忘れた頃にやってくる」の警句で有名な地球物理学者、寺田寅彦も創設に尽力しました。現在は世界最大級の地震研究所として、地震のメカニズムから、地震活動を捉える観測網の基礎技術に至るまで、暮らしに関わる研究成果を世に送り出しています。そんな東大地震研の歴史や次の100年に向けた意気込みを紹介します。

## 辻元清美さんが語る 高市早苗首相への“連帯感”

22日(月)=タ刊2面



「お互いによくここまで生き残ってきたね……」

立憲民主党の辻元清美  
参院議員（65）Ⅱ写真Ⅱ

Ⅱと自民党の高市早苗首相（64）。実はこの2人同じ関西出身の同学年で、かれこれ30年以上の付き合い。男性優位の永田町でともに苦労を重ねた間柄です。

「ガラスの天井」を突き破って初の女性宰相となった高市氏について、辻元氏に聞きました。  
「今、高市さんにメッセージを送るとしたら？」